

新しい時代における証券アナリストの役割 —資本市場の適正な機能を保つために—

井口 讓二 CMA

目 次

1. はじめに
2. 証券アナリストの基本的な役割 (Principle)
3. 新しい時代に証券アナリストに求められる素養
4. 最後に

資本市場の基本的な機能は家計などの貯蓄を適正かつ効率的に成長資金を必要とする企業に供給することである。この市場の中での証券アナリストの役割は企業のファンダメンタルズ分析（財務情報と非財務情報の分析）を行い、長期的に株価上昇が見込まれる投資先の発掘を行うことである。この役割はいつの時代も変わらない。今後、社会の価値観の変化に伴い企業行動の構造的な変化が予想されるが、アナリストにはこれを分析・解釈する包括的な視点とファンダメンタルズ分析への組み込みが求められるであろう。

1. はじめに

証券アナリストを取り巻く環境が急速かつ大きく変化している。2014年のスチュワードシップ・コード導入に伴うスチュワードシップ活動の重要性の高まり、15年のコーポレートガバナンス・コード導入に伴うコーポレートガバナンスへの注目の高まり、企業からの有用な情報提供媒体である（任意の）アニュアルレポートの統合報告化、開示におけるフェア・ディスクロージャー・ルー

ル導入の実現等である。また、直接的ではないが、企業行動に影響を与えるであろう15年末の環境問題に焦点を当てたパリ協定の合意や、同じく15年に国連サミットで採択されたSDGs（注1）（持続可能な開発目標）も挙げられよう。

このような大きな環境変化に直面した際に証券アナリストにとって重要となるのは、資本市場の中での「基本的な役割 (Principle)」に常に立ち戻る（注2）ということである。基本的な役割とは、ファンダメンタルズ分析を通じた長期的な株価上



井口 讓二 (いぐち じょうじ)

ニッセイアセットマネジメント チーフ・コーポレート・ガバナンス・オフィサー 株式会社運用部担当部長（投資調査室）。1988年大阪大学経済学部卒、ニッセイアセットマネジメント(株)で金融・素材セクターなどのアナリスト業務、投資調査室長を経て現職。ICGN理事、企業会計基準委員会専門委員、「企業のダイバーシティ経営・人材戦略の在り方検討会」、「持続的な価値創造に向けた投資の在り方検討会」委員（経済産業省）など。主な著作に、「非財務情報（ESGファクター）が企業価値に及ぼす影響」（『証券アナリストジャーナル』13年8月号）、「スチュワードシップとコーポレートガバナンス」（共著、東洋経済、15年1月）、「コーポレートガバナンス・コードの実践」（共著、日経BP、15年4月）など。